

平成 29 年 12 月 20 日に開催されました第 2 回奈良県公共事業評価監視委員会において、資料の修正の指摘を受けた件について、以下のとおり修正を行っております。

【ホラ谷立里線】

① P 3 事業の概要

P 3 の事業の概要に、事業の目的の詳細内容を追記しました。

(修正前)

## 2. 事業の概要

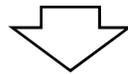
◆事業の目的

- ・間伐などの森林整備の促進
- ・地域の活性化

◆事業概要、進捗状況

路線名	林道ホラ谷立里線
事業区間	奈良県吉野郡野迫川村北股地区～ 奈良県吉野郡野迫川村立里地区
事業延長	8,200m
構造規格	2級林道
設計速度	30km/h
車線数	1車線
道路幅員	3.5～4.0m
事業費	全体事業費 約17億円
事業の経緯	平成14年 事業開始

3



(修正後)

## 2. 事業の概要

◆事業の目的

- ・間伐などの森林整備の促進  
・村の基幹産業である林業の活性化を図り、木材生産量の増加や、林業従事者の雇用を促進するため
- ・地域の活性化  
・村内の観光資源の有効活用を図り、観光道路として利用するため  
・災害に強い村として、避難路、緊急輸送物資のルート確保のため

◆事業概要、進捗状況

路線名	林道ホラ谷立里線
事業区間	奈良県吉野郡野迫川村北股地区～ 奈良県吉野郡野迫川村立里地区
事業延長	8,200m
構造規格	2級林道
設計速度	30km/h
車線数	1車線
道路幅員	3.5～4.0m
事業費	全体事業費 約17億円
事業の経緯	平成14年 事業開始

3

追記

② P 9 事業の必要性に関する視点

P 9の事業の投資効果において、事業進捗に合わせ、費用投資と便益の発現時期を精査・整理し、再度便益(B)、費用(C)、費用便益比(B/C)を算出しました。

## 3. 事業の必要性等に関する視点

### 3) 事業の投資効果

◆事業全体

便益(B)	木材生産便益	森林整備経費縮減等便益	一般交通便益	災害等軽減便益	総便益	費用便益比(B/C)
	220百万円	1,266百万円	150百万円	565百万円	2,201百万円	0.99
費用(C)	事業費		うち維持管理費		総費用	
	2,214百万円		47百万円		2,214百万円	

(前回再評価時B/C=1.08)

◆残事業

便益(B)	木材生産便益	森林整備経費縮減等便益	一般交通便益	災害等軽減便益	総便益	費用便益比(B/C)
	182百万円	1,157百万円	150百万円	565百万円	2,054百万円	2.21
費用(C)	事業費		うち維持管理費		総費用	
	929百万円		41百万円		929百万円	

■算出条件

- 基準年 : 平成29年度
- 検討期間 : 05年間
- 事業開始のための
- 社会的割引率 : 4%
- 推計に用いた資料 : 平成27年度道路交通センサス
- 適用した費用便益分析 : 平成24年4月版マニュアル
- 事業費 : 2,214百万円(現在価値)
- 維持管理費 : 181円/m
- 作成主体 : 野辺川村

再度、便益(B)、費用(C)  
費用便益比(B/C)を精査・  
整理し、算出。

③ P 1 1 事業の必要性に関する視点

P 1 1の地域における計画等において、事業の目的ごとに詳細内容に関し、村・県の各種施策・計画における位置付け・数値目標を明記することにより、森林整備以外にも定量化出来ない効果を明確にし、事業の必要性を明示しました。

(修正前)

### 3. 事業の必要性等に関する視点

#### 4) 地域における計画等

事業の位置付け

- 野迫川村森林整備計画(平成28年3月)  
地域の主体的な取組の下で、計画的に間伐・保育等を実施し、林道等生産基盤整備、森林施業の機械化、林業従事者の確保等の推進を図り、森林整備を地域ぐるみで積極的に進める。
- 北山・十津川地域森林計画(平成28年3月)  
林業生産基盤として、集約的な施業を進め、木材の安定的な供給を図るため道路網が不可欠であり、自然環境との調和や林地保全等に配慮しつつ、効率的、効果的な林道や作業道の整備を推進。
- 魅力ある緑豊かな村づくり計画(平成28年8月)  
野迫川村まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会を設置し、国・県の総合戦略との整合性を図り、地域性を図るため林道、村道の一体的な整備を行うとともに、森林整備、観光振興を促進。
- 野迫川村地域防災計画(平成28年3月)  
野迫川村は、山間地であるため、風水害発生時においては土砂流出により、道路の大部分が使用不可能になり消火、救助、避難活動に支障をきたすと推測される。それゆえ、道路・林道の整備は緊急な課題であり、道路・林道の整備と既存道路の機能確保の両面から整備する。

12



(修正後)

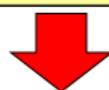
### 3. 事業の必要性等に関する視点

#### 4) 地域における計画等

- 間伐などの森林整備の促進
- 野迫川村森林整備計画(村計画)では、10年間で村の全体事業量9.5kmのうち、ホラ谷立里線を5km整備することを目標としている。また、北山・十津川地域森林計画(県計画)でも同様に、同じ目標を立て、森林整備を地域ぐるみで積極的に進めるため、林道の整備が必要。
- 地方創生という観点から、野迫川村 まち・ひと・しごと総合戦略(村計画)では、村内道路総延長を平成27年の161kmから平成31年までの5年間で162kmにすることを目標としている。これを元立てしている、魅力ある緑豊かな村づくり計画(地域再生計画・村計画)では、道路網の整備により林業をベースとした産業を創出し、林業振興を図るためには、森林施業や木材搬出のためのアクセス道整備が必要。
- 奈良県林業・木材産業振興プラン(県計画)では、県産材生産量(素材ベース)を平成25年の148千m<sup>3</sup>から平成32年には250千m<sup>3</sup>を目標としており、搬出コストを下げるためにも林道を整備することが必要。
- 地域の活性化
- 野迫川村 まち・ひと・しごと総合戦略・魅力ある緑豊かな村づくり計画(村計画)では、村の観光入込者数を平成27年の25万人から平成32年には26万人にすることを目標としている。また、奈良県南部振興基本計画(県計画)では、南部地域における観光入込者数を平成25年の445万人から平成32年には550万人にすることを目標としている。そのためにも、「熊野古道小辺路」を軸とした観光の拠点作りを目指し、観光・交流を重点とする村づくりを進めていく上でも道路網の整備は必要。
- 野迫川村地域防災計画(村計画)では、北股弓手原線、ホラ谷立里線は既存の輸送道路と防災拠点を連絡する道路に位置付けられ、また、奈良県南部振興基本計画(県計画)では南部地域において、災害への対応力を強化する観点より、道路の防災・減災対策及び老朽化対策を効果的・効率的に進めることとしていることから、林道の整備が必要。

※ 以上のことから、費用対効果は小さいが、林道の整備は村・県の各種施策・計画にも位置付けられていることから、森林整備以外にも定量化出来ない効果がある。

11



村・県の各種施策・計画を青字で明記

数値目標を赤字で明記

【北股弓手原線】

④ P 3 事業の概要

P 3の事業の概要に、事業の目的の詳細内容を追記しました。

(修正前)

## 2. 事業の概要

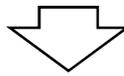
### ◆事業の目的

- ・間伐などの森林整備の促進
- ・交通利便性の向上
- ・地域の活性化

### ◆事業概要、進捗状況

路線名	林道北股弓手原線
事業区間	奈良県吉野郡野迫川村北股地区～ 奈良県吉野郡野迫川村松股地区
事業延長	5,784m
構造規格	1級林道
設計速度	30km/h
車線数	1車線
道路幅員	4.0～5.0m
事業費	全体事業費 約26億円
事業の経緯	平成8年 事業開始

3



(修正後)

## 2. 事業の概要

### ◆事業の目的

- ・間伐などの森林整備の促進  
・村の基幹産業である林業の活性化を図り、木材生産量の増加や、林業従事者の雇用を促進するため
- ・交通利便性の向上  
・通勤・通学の時間短縮、買い物等の生活道路として利用するため
- ・地域の活性化  
・村内の観光資源の有効活用を図り、観光道路として利用するため

### ◆事業概要、進捗状況

路線名	林道北股弓手原線
事業区間	奈良県吉野郡野迫川村北股地区～ 奈良県吉野郡野迫川村松股地区
事業延長	5,784m
構造規格	1級林道
設計速度	30km/h
車線数	1車線
道路幅員	4.0～5.0m
事業費	全体事業費 約26億円
事業の経緯	平成8年 事業開始

追記

3

⑤ P10 事業の必要性に関する視点

P10の事業の投資効果において、事業進捗に合わせ、費用投資と便益の発現時期を精査・整理し、再度便益(B)、費用(C)、費用便益比(B/C)を算出しました。

### 3. 事業の必要性等に関する視点

**3) 事業の投資効果**

◆事業全体

便益(B)	木材生産便益	森林整備経費縮減等便益	一般交通便益	災害等軽減便益	総便益	費用便益比(B/C)
	179百万円	2,315百万円	579百万円	374百万円	3,447百万円	0.83
費用(C)	事業費		うち維持管理費		総費用	
	4,132百万円		32百万円		4,132百万円	

(前回再評価時B/C=1.35)

◆残事業

便益(B)	木材生産便益	森林整備経費縮減等便益	一般交通便益	災害等軽減便益	総便益	費用便益比(B/C)
	108百万円	2,042百万円	578百万円	374百万円	3,102百万円	5.49
費用(C)	事業費		うち維持管理費		総費用	
	565百万円		18百万円		565百万円	

再度、便益(B)、費用(C)  
費用便益比(B/C)を精査・  
整理し、算出。

■算出条件等

- 基準年 : 2029年度
- 検討期間 : 100年間
- 現在地(2029年度時点) : 2029年度時点
- 算出に用いた資料 : 平成27年度道路交通センサス
- 適用した費用便益分析 : 平成24年4月版マニュアル
- 事業費 : 4132百万円(現在価値)
- 維持管理費 : 181円/m
- 作成主体 : 野迫川町

10

⑥ P12 事業の必要性に関する視点

P12の地域における計画等において、事業の目的ごとに詳細内容に関し、村・県の各種施策・計画における位置付け・数値目標を明記することにより、森林整備以外にも定量化出来ない効果を明確にし、事業の必要性を明示しました。

(修正前)

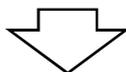
### 3. 事業の必要性等に関する視点

#### 4) 地域における計画等

事業の位置付け

- 野迫川村森林整備計画(平成28年3月)  
地域の主体的な取組の下で、計画的に間伐・保育等を実施し、林道等生産基盤整備、森林施業の機械化、林業従事者の確保等の推進を図り、森林整備を地域ぐるみで積極的に進める。
- 北山・十津川地域森林計画(平成28年3月)  
林業生産基盤として、集約的な施業を進め、木材の安定的な供給を図るために道路網が不可欠であり、自然環境との調和や林地保全等に配慮しつつ、効率的、効果的な林道や作業道の整備を推進。
- 魅力ある緑豊かな村づくり計画(平成28年8月)  
野迫川村まち・ひと・しごと創性総合戦略推進委員会を設置し、国・県の総合戦略との整合性を図り、地域性を図るため林道、村道の一体的な整備を行うとともに、森林整備、観光振興を促進。
- 野迫川村地域防災計画(平成28年3月)  
野迫川村は、山間地であるため、風水害発生時においては土砂流出により、道路の大部分が使用不可能になり消火、救助、避難活動に支障をきたすと推測される。それゆえ、道路・林道の整備は緊急な課題であり、道路・林道の整備と既存道路の機能確保の両面から整備する。

13



(修正後)

### 3. 事業の必要性等に関する視点

#### 4) 地域における計画等

- 間伐などの森林整備の推進
- ◆ 野迫川村森林整備計画(村計画)では、10年間で村の全体事業量9.5kmのうち、北股弓手原を1km整備することを目指している。また、北山・十津川地域森林計画(県計画)でも同様に、同じ目標を立て、森林整備を地域ぐるみで積極的に進めるため林道の整備が必要。
- ◆ 地方創生という観点から、野迫川村 まち・ひと・しごと総合戦略(村計画)では、村内道路総延長を平成27年の161kmから平成31年までの5年間で162kmにすることを目標としている。これを元立てている。魅力ある緑豊かな村づくり計画(地域再生計画・村計画)では、道路網の整備により林業をベースとした産業を創出し、林業振興を図るためには、森林施業や木材搬出のためのアクセス道整備が必要。
- ◆ 奈良県林業・木材産業振興プラン(県計画)では、県産材生産量(素材ベース)を平成25年の148千m3から平成32年には250千m3を目標としており、搬出コストを下げるためにも林道を整備することが必要。
- 交通利便性の向上
- ◆ 野迫川村 まち・ひと・しごと総合戦略(村計画)では、社会増減による人口増減目標値数を平成27年から平成31年まで±0人を目標とし、雇用の創出や定住を促進することとしていることから、村内の移動やアクセスの利便性を向上させ、地域再生を図るため村道・林道の一体的な整備が必要。加えて、奈良県南部振興基本計画(県の計画)では、平成32年の人口の社会増減をプラスにすることを目標としており、そのためにも紀伊半島アンカールートを含む災害に強い交通アクセスの道路整備が必要。
- 地域の活性化
- ◆ 野迫川村 まち・ひと・しごと総合戦略・魅力ある緑豊かな村づくり計画(村計画)では、村の観光入込者数を平成27年の25万人から平成32年には26万人にすることを目標としている。また、奈良県南部振興基本計画(県計画)では、南部地域における観光入込者数を平成25年の445万人から平成32年には550万人にすることを目標としている。そのためにも、「熊野古道小辺路」を軸とした観光の拠点作りを目指し、観光・交流を重点とする村づくりを進めていく上でも道路網の整備は必要。
- ◆ 野迫川村地域防災計画(村計画)では、北股弓手原線、ホラ谷立里線(既存の輸送道路と防災拠点を連絡する道路に位置付けられ、また、奈良県南部振興基本計画(県計画)では南部地域において、災害への対応力を強化する観点より、道路の防災・減災対策及び老朽化対策を効果的・効率的に進めることとしていることから、林道の整備が必要。

※ 以上のことから、費用対効果は小さいが、林道の整備は村・県の各種施策・計画にも位置付けられていることから、森林整備以外にも定量化出来ない効果がある。

12

